

1 ねらい

大塩平八郎の乱をきっかけに、各地で一揆や打ちこわしが頻発するようになり、幕府の支配体制が大きく揺らいだことが分かるようにする。

2 授業の流れ

1 導入・視聴前のポイント (10分)

- ・江戸時代の年表を確認し、時代の流れの概要をつかんでおく。
- ・大塩平八郎が大阪で反乱を起こしたことを教科書で学習しておく。
- ★特に、江戸の文化の学習などを通して江戸時代が天下泰平の世であったことをつかませておくことで、大塩が登場してきた頃から、次第に社会が不安定になってきたことをつかみやすくする。

2 学習課題の提示(5分)

「大塩平八郎の乱によって、世の中はどのように変わっていったのだろうか？」

3 番組視聴 (情報収集) ワークシート1 (15分)

- ・大塩平八郎について分かったことをワークシート1に整理する。
- ★大塩平八郎とは、どのような人物だったのか
- ★その当時の世の中の様子はどうか
- ★なぜ、大塩は役人を辞めたのか
- ★大塩は、どうして反乱を起こしたのか
- ★大塩の反乱後の世の中はどうなっていたか など

4 情報整理 ワークシート2 (5分)

- ・学習課題について、自分の考えをまとめる際に活用できるよう、ワークシートの()の中にキーワードを書き入れ、整理する。
- ★教科書には載っていない事項もあるので、教師が番組視聴の際にキーワードだけ黒板に板書しておく子どもたちがスムーズに取りかけられる。

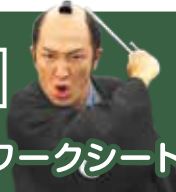
5 まとめ ワークシート3 (10分)

- ・学習課題について、ワークシート3に自分の考えをまとめる。
- ・大塩平八郎の乱の歴史的な意味について、自分たちの考えを交流する。

3 評価のポイント

大塩平八郎の乱にかかわる事項を整理し、その歴史的意味についてまとめることができる。
(思考・判断・表現…主にワークシート3)

ワークシート例



歴史上に
ドモリ
ワークシート

おおしおへいはちろう
大塩平八郎 ~庶民の反乱~

くみ	なまえ
----	-----

学習課題

「大塩平八郎の乱によって、世の中はどのように変わっていったのだろう」

1 大塩平八郎について分かったことをメモしよう。

- ・大塩は、大阪の町奉行所で働く「与力」という役人だった。
- ・大塩は、不正を憎む役人で、数々の事件を解決するなど、大活躍した。
- ・与力の仕事に限界を感じた大塩は、38歳で辞職し、陽明学の研究と弟子の教育に専念した。
- ・天保の大飢饉が起きても私利私欲に走る役人や商人を見て、反乱を起こした。
- ・反乱は、幕府側の軍勢によってその日のうちに鎮圧された。
- ・乱から40日後、大塩は自ら壮絶な最期を遂げた。
- ・乱後、幕府の政治に対する不満が高まり、打ちこわしや一揆が増えた。

2 大塩平八郎の乱にかかわることについて整理しよう。

(**江戸時代の終わり**)頃になると、役人や商人たちの不正が目立つようになる
↓
一生懸命に大阪の町奉行所で(**与力**)の仕事に励むが、限界を感じる大塩
↓
役人を辞めて、(**陽明学**)の研究と弟子の教育に専念する
↓
(**天保の大ききん**)が起き、全国で飢えに苦しむ人々があふれるようになる
↓
ききんには目もくれず、私利私欲に走る(**役人や商人**)
↓
大塩が(**大阪**)で反乱を起こす
↓
大塩はとらえられるが、(**一揆や打ちこわし**)が全国各地で起こるようになる

3 学習課題についてまとめよう。

江戸時代も終わりに近づくと、幕府の役人や商人の腐敗が進み、民衆にも不満が蓄積してきた。そのような中、民衆のために立ち上がったのが大塩平八郎である。それまで幕府の行うことに従っていた民衆だったが、この乱を境に、一揆や打ちこわしなどの行動に出るようになり、やがて幕府を倒そうとする運動に高まっていく。これにより、幕府の支配体制が大きく揺らぐことになった。

